

12 南浜地域

(1) 地域の課題 *

種差海岸などの貴重な自然環境の保全・活用

- ・種差海岸などの自然環境は、八戸市にとって大事な資源であり、保全を図ることが必要です。また、自然環境との調和に配慮しながら活用することも必要です。

集落における居住環境の向上

- ・集落が地域内に分散しているため、集落ごとに居住環境の向上に取り組むことが必要です。

漁村、農村環境の維持と保全

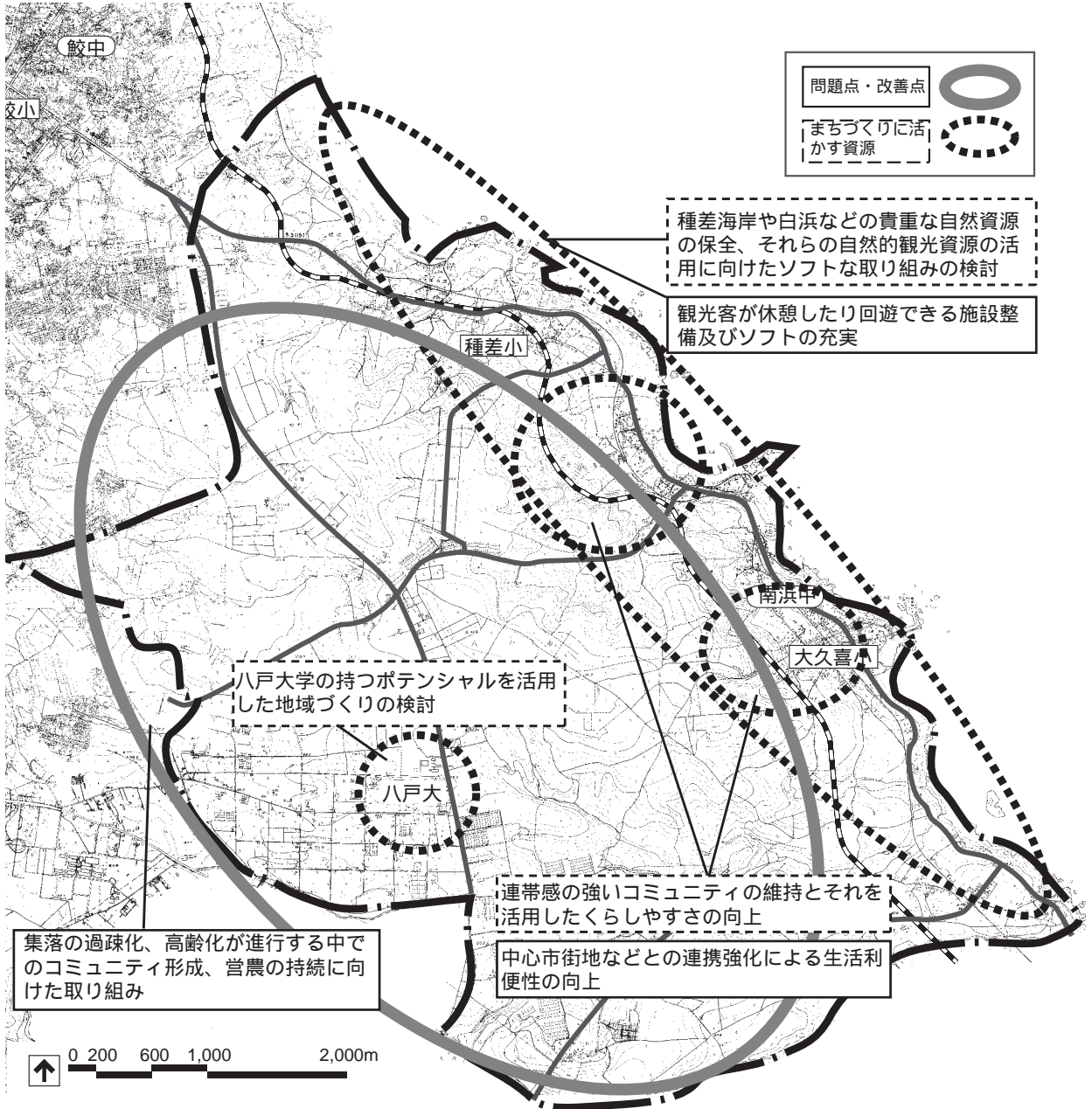
- ・高齢化がすすみ、過疎化も懸念される中で、漁村・農村環境の維持・保全のため集落やコミュニティによる取り組みが必要です。

中心市街地との連絡の強化

- ・地域で持てない機能は、都市拠点や近隣の生活サービス拠点を利用することになるため、アクセス*、連携を強化することが必要です。



課題図



(2) まちづくりの目標

1) 地域のめざすべき方向

中心市街地や鮫駅周辺と連携し、快適で暮らしやすいまちをめざす

- ・集落をコミュニティの単位として居住環境の充実を図るとともに、道路や公共交通の充実により中心市街地や鮫駅周辺との連携をすすめます。

自然と地域の産業が調和したまちをめざす

- ・自然海岸や丘陵地などの豊かな自然環境の保全を図るとともに、自然と地域の産業が調和したまちづくりをすすめます。

種差海岸を活かし、ホスピタリティにあふれたまちをめざす

- ・地域の魅力資源である種差海岸では、訪れた人々がくつろぎ、交流できる空間づくりをすすめるとともに、もてなしの心「ホスピタリティ*」のあるまちづくりをすすめます。
- ・八戸大学などの教育施設が集まる美保野地区では、大学と連携したまちづくりをすすめます。

2) 将来像

種差海岸の海と緑をまもり、くらしと交流をはぐくむまち

南浜地域は、種差海岸や丘陵部の水と緑が特徴です。

海岸や丘陵の自然をまもりながら、

観光や漁業、農業とくらし、そして人と人とのつながり・交流をはぐくむまちをつくれます。



(3) まちづくりの方針

1) 土地利用・市街地整備の方針

- ・ 海岸や丘陵部などの自然環境の保全につとめます。特に種差海岸では、環境に配慮しながら、訪れた人々がくつろげる空間として活用を図ります。
- ・ 種差海岸駅周辺では、自然環境の保全に配慮しながら、訪れた人々をもてなし、ふれ合う観光拠点づくりをすすめるとともに、日常生活を支える生活サービス拠点の形成を図ります。
- ・ 地域における生活利便性を高めるとともに自然環境の保全を図るため、生活排水の個別処理をすすめます。
- ・ 美保野地区では、地区計画制度などを活用し、八戸大学などのにぎわいを活かしたまちづくりをすすめます。

2) 道路・交通体系整備の方針

- ・ 種差海岸沿いに走る主要地方道八戸階上線は、自然環境の保全に配慮し、観光バスがすれ違えない場所の部分的な改良をすすめます。また、種差海岸駅周辺などの観光拠点周辺で駐車場の整備をすすめます。
- ・ 中心市街地や鮫駅周辺と結ぶ幹線道路（市道）の充実を図ります。
- ・ 通学路や観光客の散策するルートでは、安心して歩ける道路環境づくりをすすめます。
- ・ 中心市街地などへの地域住民のアクセスとして、また観光などで訪れる人々のアクセスとして鉄道の利用促進を図るとともに、駅周辺において、トイレなどの利便施設を整えます。



3) 公園緑地・水辺環境整備の方針

- ・ 海岸では、自然環境とのバランスを図りながら、レクリエーション機能の充実を図ります。
- ・ 集落では、身近な公園・広場の整備をすすめます。
- ・ 丘陵部では、自然環境の保全を図るとともに、耕作放棄地などの緑地化を考えます。

4) 災害に強い地域づくりの方針

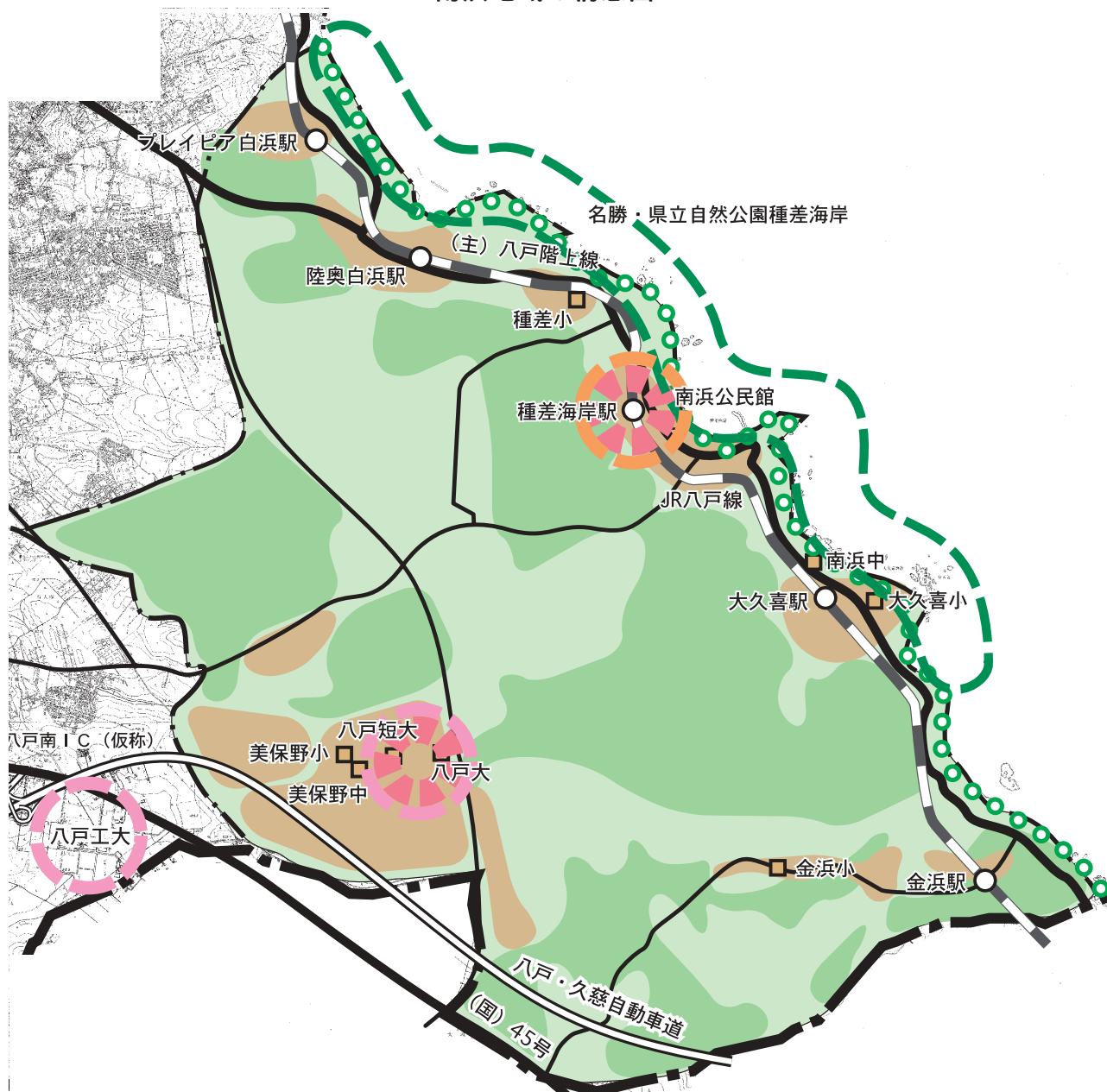
- ・ 津波などによる災害への対応が必要な海岸部の集落では、避難地、避難経路を確保します。

5) 景観形成の方針

- ・ 市内を代表する風景の一つである種差海岸や大須賀海岸などの風光明媚な景観の保全を図ります。



南浜地域の構想図



凡 例

土地利用			交通などのネットワーク			生活拠点		
住宅系ゾーン			鉄道			生活サービス拠点		
集落ゾーン			高規格道路			生活うるおい拠点		
商業系ゾーン			幹線道路			広域拠点		
産業系ゾーン			補助幹線道路			観光・交流拠点		
農地ゾーン			水とみどりのネットワーク			産学連携・学術拠点		
緑地ゾーン						水とみどりの拠点		
都市施設								
			学校					
			公園					
			その他公共公益施設					
南浜地域								